

漆校区まちづくりプラン

〔漆校区振興計画〕



始良市立漆小学校の校歌に出てくる漆盆地から遥かに仰ぐ「桜島」

鹿児島県始良市

漆校区コミュニティ協議会

(漆校区振興計画策定委員会)

基本理念

う

つくしい自然に囲まれた山あいの里で助け合い

る

いを見ない現代の桃源郷を目指し

し

っかりと高齢者と子どもをやさしく見守る漆



校区の拠点「漆の里万来館」

はじめに

漆校区は始良市蒲生地区に属し、始良市内 17 校区の中で一番小さな世帯と人口で組織を構成するコミュニティ協議会です。

漆校区は、金が産出していた昭和初期には戸数約 400、人口約 2,000 人が暮らしていましたが、戦後金山が閉鎖されてから人口減少の一途をたどり、昭和の終わりごろには戸数約 250、人口約 600 人まで減少しました。

そして、このまちづくりプランを策定する時点の平成28年4月には、戸数約 140、人口約 250 人まで落ち込んで限界集落と呼ばれるような事態となってしまいました。

しかし、私たちは伝統を守り、そして受け継ぎ、校区民のやる気と熱意の中様々な活動を行い、他の校区の手本となるような校区づくりに取り組んでいます。

漆校区コミュニティ協議会は、親子代々この漆を愛し、美しい自然に囲まれた山あいの里で助け合い、高齢者や子ども達をやさしく見守りながら、末永く幸せに暮らせる新たな時代の桃源郷を目指して、校区民一丸となってまちづくりが進んでいくことを願い「漆校区まちづくりプラン」を策定しました。

どうかこの「漆校区まちづくりプラン」の実現に向けて、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平成29年3月

漆校区コミュニティ協議会
会長 森田 俊正

漆校区振興計画策定委員会
委員長 湯 脇 博 信

1 漆校区の現状と課題

漆校区の概要

■ 地勢・地名

始良市蒲生地区の北西部に位置し、6の自治会で構成されています。始良市役所蒲生総合支所から北へ約10kmほど山あいを抜けていくと、急に視界が開け、四方を山に囲まれ、その中央に、北西から南東にかけて盆地が開けています。

四周の山は、南部東部が低く、北部西部が高い。南部は「愛宕山 150m」、東部は「鬼ノ堂山 327m」、西部は「黒仁田山 518m」、北部は蒲生地区最高峰の「矢止岳 669.7m」を主峰とする山々が連なっています。

河川は、北の「権現段」と西の「黒仁田」の山中に始まり、漆川と呼ばれ、「赤仁田川」・「西川内川」と合流して、蒲生の「前郷川」へ連なり、その下流は「別府川」となって錦江湾（鹿児島湾）に注いでいます。

道路は、県道463号浦蒲生線と呼ばれ「米丸」を通り、「漆川」にそって北上し、「愛宕山」の狭間を通り漆盆地に入ると漆小学校が見えてきます。

さらに、県道391号下手山田帖佐線は、薩摩川内市祁答院町大村から北部と西部の間の勝利峠を抜け、十文字バス停を経由して東部に進むと木津志に通じています。

また、市道漆西浦線が堂本橋を起点に旭集落から西川内集落を抜けると、西浦校区に通じています。

位置としては、漆小学校が、東経130度33分、北緯31度49分です。

面積は、16.29平方キロメートルで、蒲生地区で2番目に大きい地区です。

漆という地名は、享禄4年（1531年）頃の文書や、戦国時代に島津貴久が蒲生合戦を行った際の合戦の様子を、島津方の武将が弘治2年（1556年）に記した日誌の中に出てきています。

漆の地名の由来は、漆の木が多かったために付けられたと伝承されていますが、現在、漆の木が自生しているのを見かけることはほとんどありません。

（資料・平成4年発行蒲生町漆集落史 松永守道著）

■ 主な地域資源

交通	公共施設等
バス 南国交通 巡回バス	漆の里万来館 蒲生生活改善センター
道路 県道463号浦蒲生線 県道391号下手山田帖佐線 1級市道 漆西浦線	蒲生農産加工施設 漆簡易郵便局

産業	旧跡・神社仏閣
農業 主に米作り なた豆栽培 麦栽培 やまいも栽培	史跡 漆の庚申塔・漆の田の神・一字一石経塚・石塔の田の神・永仁五輪塔・如意輪観音・中村集落の玉石垣 神社 飯留神社・三所権現（権現様） 寺 満徳寺
教育施設	まつり・イベント・伝統芸能
始良市立漆小学校（特認校）	夏祭り（毎年8月14日開催） バラ踊り・敬老祝賀会、

■ 校区内の主な取組み

シニアグラウンドゴルフ大会（年2回開催）・自治会対抗グラウンドゴルフ大会
 田んぼの学校（米作り）・畑の学校（さつまいも等栽培）・夏祭り・敬老祝賀会
 鬼火たき・飯留神社例大祭・子ども会（六月灯・十五夜・キャンプ）

■ コミュニティ

名 称	設立年月日	事 務 局
漆校区コミュニティ協議会	平成27年4月1日	漆の里万来館内



漆校区コミュニティ協議会 事務所（漆の里万来館内）

○漆校区の現況と課題

■人口・世帯数などについて

平成 28 年 4 月末の漆校区の人口 255 人、世帯数 144 世帯で、始良市全体に占める割合はそれぞれ 0.3%と 0.4%で、1 世帯あたりの平均世帯人員は約 1.8 人となっており、うち 65 歳以上の高齢者は 143 人であり高齢化が特に進んでいます。

構成する自治会数は 6 自治会で、人口の多いのは漆下自治会（33 世帯 60 人）、次は漆東自治会（26 世帯 39 人）、漆中自治会（22 世帯 39 人）、宇都自治会（20 世帯 38 人）、漆旭自治会（18 世帯 37 人）で、最も少ないのは漆西自治会（19 世帯 30 人）です。

漆下自治会を除く他の各自治会の規模はほとんど差異がないが、地域見守り隊の活動の中で、高齢の夫婦と高齢者の一人暮らしの方が非常に多いと報告されています。

自治会加入率は地区全体で 95.8%と他の校区と比較すると非常に高い加入率です。

しかし、高齢化が特段に進んでいることから、各行事やイベント等への参加者のかたより、役員のなり手不足や負担の重さから一人の者がたくさんの職を兼務している状況であります。

なお、漆校区は、コミュニティ協議会を平成 27 年 4 月 1 日からいち早く立ち上げて、高齢化社会に対応すべく取り組んでいます。

自治会別人口・世帯数の状況

自治会名	男	女	計	世帯	高齢化率	15 歳未満人口	15 歳～64 歳人口	65 歳以上人口
漆 下	25	35	60	33	50.0	4	26	30
漆 中	19	20	39	22	59.0	2	14	23
宇 都	15	23	38	20	42.1	3	19	16
漆 西	9	21	30	19	63.3	2	9	19
漆 東	17	22	39	26	79.5		8	31
漆 旭	16	21	37	18	48.6		19	18
未加入	6	6	12	6	50.0		6	6
合計	107	148	255	144	56.1	11	101	143

協議会調べ「平成 28 年 4 月 1 日現在」

■ 地域全体で高齢化への対応が求められている

漆校区の高齢化率は平成 28 年 4 月 1 日現在 56.1%で、始良市全体の 29.6%を大きく上回っており、限界集落と呼ばれるような危機的状況にある。

データで示されているように、人口減少、高齢者の増加、子どもの数が 11 人であり、今後の対策が急務となっています。

また、高齢者の一人暮らしや夫婦のみの世帯も年々増加しており、これからは地域全体での見守りや、買い物などの生活支援、災害時等の取組みの更なる充実、すなわち自助・共助が必要不可欠となってきます。

■ 防災に対する住民の意識

漆校区は、幸いにして大きな災害が半世紀以上にわたり発生していないことから、災害等に対する防災の住民意識は低いと思われます。

台風被害、集中豪雨等による被害で倒木等による 3 日間程度の停電になることも数年に 1 回程度はあるものの県道・市道が完全不通になることが無いためと思われます。

■ 自然に恵まれた地区だが、今後は住環境の整備、空き家等の有効活用を

山に囲まれた田、漆黒に浮かぶ満点の星空とホタル舞う自然豊かな漆校区、私たちは、この自然に誇りを持ち、漆校区全体で自然を守って生きたいと願っています。

しかし、蒲生総合支所と 10 km以上離れており交通の便が悪い、お店がない、防犯灯が少ないなど住環境に恵まれていません。

また、空き家が多くなっており、台所・水洗トイレ・お風呂などの水周りのリフォームが必要であり、現在のライフスタイルを好む若い人が敬遠することは当然と思われるので、行政によるリフォーム等への更なる補助金の充実を図り、若い人が住みやすい住環境を整備することが望まれています。

■ 史跡や伝統芸能の保存が課題

漆校区には、史跡として漆の庚申塔・漆の田の神・一字一石経塚・永仁五輪塔・康永板碑・石塔の田の神・如意輪観音・権現様・中村集落の玉石垣があり、地域で大切に保存しています。

また、漆の伝統芸能である「バラ踊り」は、小学校の子どもたちやPTAと地域の有志により何とか継承しているのが現状です。

しかし、子どもたちがいなくなるといっきに後継者不足となり、保存、継承が出来なくなる危機的状況となることが予想され、校区としての対策が求められています。

2 漆校区がめざす将来像

漆校区の将来像を以下に示します。

この目標案は、みんな笑顔で交流しよう、校区内の恵まれた自然を大切に子や孫などの次世代へ引き継ごう、そして、大人から子どもまで楽しく生きいきと豊かな心を育んでいこうというものです。

また、副題として、グリーンツーリズムを利用し交流人口を取り込み、いろんな体験、温かい交流を通じ、みんなで安心安全にぐらす地域づくりを掲げることで、今後コミュニティとして取組むべきことを明確にして、地域住民の意識を高めていくことを目的としています。

スローガン（将来像）

中山間地域の特性を生かして人々が生きいきと暮らし学ぶ漆校区
「グリーンツーリズムで交流人口を取り込み、みんなで安心安全にぐらす地域づくり」



始良市立漆小学校（明治12年4月開校）創立138周年を数える。

現在「小規模校入学特別許可」（特認校）制度を利用し、校区外からも児童が通学している。

3 分野別の基本方針

将来像を達成するために、コミュニティ協議会の4つの部会ごとに「目指す姿と基本方針」を掲げ実現に向かって行動します。

総務部会	目指す姿
	住民を災害等から守るまちづくり
基本方針	地域づくり部会と連携し、住民情報を共有して、自分たちのまちは自分たちで守る自主防災組織を立ち上げ、行政に頼らないまちづくりを目指します。

健康福祉部会	目指す姿
	住民の健康を高めるまちづくり
基本方針	地域住民の健康のために、市主管の健康診断受診率の向上や各種健康講座などに取組んでいきます。また、漆見守り隊を発足させて高齢者の孤立化を防ぎ、生活支援の充実、みんなが集える交流の場作りを目指します。

地域づくり部会	目指す姿
	明るく、豊かで、安心安全な地域づくり
基本方針	各種イベントを誘致し開催することで、住民同士がふれあう機会を広げ、地域の絆づくり及び行政を含む関係団体の連携を図っていきます。また、それらの活動を通じて、自治会、コミュニティ組織を強化し、人材発掘、次世代のリーダー育成を目指します。 また、地域の美しい自然環境を維持するため、ゴミの見守りパトロールなど環境美化活動を推進します。

青少年育成部会	目指す姿
	子どもは地域の宝、住民で見守るまちづくり
基本方針	子どもは地域の宝、親と学校だけでなく自治会やコミュニティ協議会が一体となり各種体験やふれあいの場を通じて子どもたちの健全な育成を図ります。 また、郷土芸能である「漆バラ踊り」に対しても、子ども達や保護者の積極的な参加を目指すとともに、後継者の確保・育成に努めます。

4 主な取り組みと実施時期・役割分担

4つの部会別の基本方針に沿って、今後取り組むべき取り組みとその時期、役割分担を以下のように整理します。

○施策時期について

短期	1～2年で取り組む
中期	3～5年で取り組む
長期	6～10年で取り組む

○役割分担について

地域	校区内で取り組むこと
協働	校区と行政が取り組むこと
行政	行政が取り組むこと

○体系のイメージ

将来像	部 会	目指す姿	取り組む分野
きと暮らし学ぶ漆校区 中山間地域の特性を生かして人々が生きいき	総務部会	住民を災害等から守るまちづくり	ふれあいの機会の充実 地域と行政の一体化 自主防災組織
	健康福祉部会	住民の健康を高めるまちづくり	住民の健康 高齢者の福祉 交通弱者・買い物弱者
	地域づくり部会	明るく、豊かで、安全安心な地域づくり	自治会、コミュニティ組織機構の強化 人材発掘、次世代のリーダー育成
	青少年育成部会	子どもは地域の宝、住民で見守るまちづくり	子ども達の健全育成 バラ踊りの継承

総務部会

今後、取り組むこと

施 策	実 施 時 期			役 割 分 担		
	短期 1-2年	中期 3-5年	長期 6-10年	地域	協働	行政
住民を災害等から守るまちづくり						
■高齢者の一人暮らしや、高齢者だけの世帯を、自治会、消防団、民生委員などで情報の共有を図り、災害時などに役立てる	△ ○	●			●	
■見守り隊で高齢者世帯への声掛け運動を展開する	△○●			●		

※ △（検討期間）、○（準備期間）、●（実施期間）



見守り隊による家庭訪問

健康福祉部会

今後、取り組むこと

施策	実施時期			役割分担		
	短期 1-2年	中期 3-5年	長期 6-10年	地域	協働	行政
住民の健康を高めるまちづくり						
■市包括支援センターと見守り隊で高齢者の健康状態をチェックする	△○●				●	
■田の神さあ食堂を実施する	△○●				●	
■田の神さあサロンを実施する	△○●			●		
高齢者の支援						
■買い物支援(JA あいらの移動販売車)	△○●			●		

※ △（検討期間）、○（準備期間）、●（実施期間）



田の神さあ食堂

地域づくり部会

今後、取り組むこと

施 策	実 施 時 期			役 割 分 担		
	短期 1-2年	中期 3-5年	長期 6-10年	地域	協働	行政
みんなが行事に参加する						
■行事に関して、知識のある人に相談をし、根回しをしていく	○	●		●		
■自治会、コミュニティ協議会役員の充実	○	●		●		
■自治会でリーダーになれそうな人に参加を促してもらう	○	●		●		
■行事に積極的に参加する人に頼んで、近隣世帯を誘ってもらう	○ ●			●		
地域自然の保全に努める						
■漆川をホタルの里にする	△	○	●	●		

※ △（検討期間）、○（準備期間）、●（実施期間）



地域の行事に参加する子ども達（新春恒例の鬼火焚き）

青少年育成部会

今後、取り組むこと

施 策	実 施 時 期			役 割 分 担		
	短期 1-2年	中期 3-5年	長期 6-10年	地域	協働	行政
子ども達と笑顔であいさつできる地域						
●自治会活動や子ども会への参加を促し、地域と子ども達が、気軽に声をかけやすい環境を作る	△ ○	●		●		
●子ども達と地域住民が交流する行事をつくる	△ ○	●		●		
●小学校の行事で地域住民とのふれあいの場を作る	△ ○	●		●		

※ △（検討期間）、○（準備期間）、●（実施期間）



バラ踊り（漆小学校・漆校区合同大運動会で披露される。）

5 今後取り組むプロジェクトの行動計画

前項の取り組むべき施策の中で、部会内で重要と思う項目や優先順位が高いと思われる事案を具体的に示します。

総務部会

●ふれあいの機会の充実を図る

漆見守り隊の活動をさらに充実させ、校区内 75 歳以上の方の「田の神食堂」や「田の神さぁサロン」への参加を促す。

●地域と行政の一体化を図る

巡回バスの利用促進を図るため、協議会所有の車両で、主に赤仁田・高峰・上集落等の住民を対象に「漆の里万来館」までの送迎を実施する。

なお、この車両で漆田の神食堂等の送迎のためにも併用して利用する。

●自主防災組織を立ち上げる

地震・大雨・台風等の自然災害に校区民全員で取り組むため、自主防災組織を立ち上げ、自分たちの校区は自分たちで守る組織づくりを推進する。

健康福祉部会

●住民の健康を守る

「漆田の神さぁサロン」をさらに充実させ、健康体操や認知症対策のための活動を促す。

●健康診断を積極的に受診させる

市が取り組む様々な健康診断を受診させるため、協議会所有の車両で、検診会場までの送迎を実施する。

●高齢者の福祉を充実させる

介護支援専門員・介護福祉士と連携して、「漆の里万来館」を活用して給食支援・入浴支援等を実施する。

●交通弱者・買物弱者を支援する

交通弱者は、協議会所有の車両で、巡回バス停（漆の里万来館）までの送迎を実施する。

走るA・コープ移動販売車「笑味ちゃん号」で、買い物弱者を全面的に支援する体制を維持する。

地域づくり部会

●自治会・コミュニティ組織機構の強化を図る

校区内人口減に対処するため各自治会の再度の合併を促し、組織機構を見直しスリム化を図る。

●人材発掘、次世代のリーダーを育成する

校区行事に積極的に参加する若者等に対し、自治会・コミュニティ活動を理解させ、次世代の担い手である自覚を植えつける。

●墓及び納骨堂の見守り活動

高齢化及び他の校区（県外移住含む。）居住者で墓及び納骨堂の維持管理ができない方々に代わって清掃作業等を有料で実施する。

●お助け隊の発足

中高年の人材を確保して「お助け隊」を発足させる。

活動内容は、現在シルバー人材センターが行っているものと同様のサービスを有料で行う。

●空き家を利用した憩いの場を立ち上げる

グリーンツーリズムで交流を楽しむ人たちを取り込むため、空き家を手作りで改修して、多彩なプログラムを計画して体験してもらう。

●子ども食堂を支援する

県内で経済的に苦しい家庭の子供たちに食事を提供している団体に対し、協議会で栽培した米を無料で配布する事業を実施する。

●市営住宅の建設を始良市に要望する

漆小学校の児童を増やすための「子育て世帯向け住宅」・漆に住みたいという方を対象とした「シニア世帯向け住宅」・一人暮らしの高齢者を対象とした「高齢者福祉住宅」の建設を始良市に要望して校区の人口増に取り組む。

●漆川をホタルの里にする

川と川のほとりの清掃や水質保全を図り、ホタルが住みやすい環境を整え、ホタルの観察会を開催し、自然へのふれあいを通じて校区民の交流を図る。

青少年育成部会

●子どもの健全育成のため地域塾を立ち上げる

子どもの健全育成と他の校区の子ども達との交流融和を図るため、始良・伊佐地域振興局総務企画課地域振興係の青少年育成指導員の指導を仰ぎ、「漆田の神地域塾」を立ち上げる。

●バラ踊りの継承を進める

「バラ踊り」は少子化に伴い漆校区に児童が少ないことから継承に危機感がある。したがって、校区外のこのような伝統芸能に興味のある児童等に対して広報紙等を通じて公募する。

6 計画の推進について

5の今後取り組むプロジェクトの行動計画に基づき、住みよい漆校区を実現し、漆校区コミュニティ協議会をさらに発展させていくうえで、取り組むべき課題は多々あります。

高齢者はますます増加し、人口は年々減少の傾向にあり継続的な地域づくりは困難となってきますが、英知を結集して、漆校区を活性化させるために、今後は以下のように取り組んでいきます。

■今回策定した「漆校区まちづくりプラン（漆校区振興計画）」を、地域全体の計画とするために、全校区民への周知に取り組み、理解を図ります。

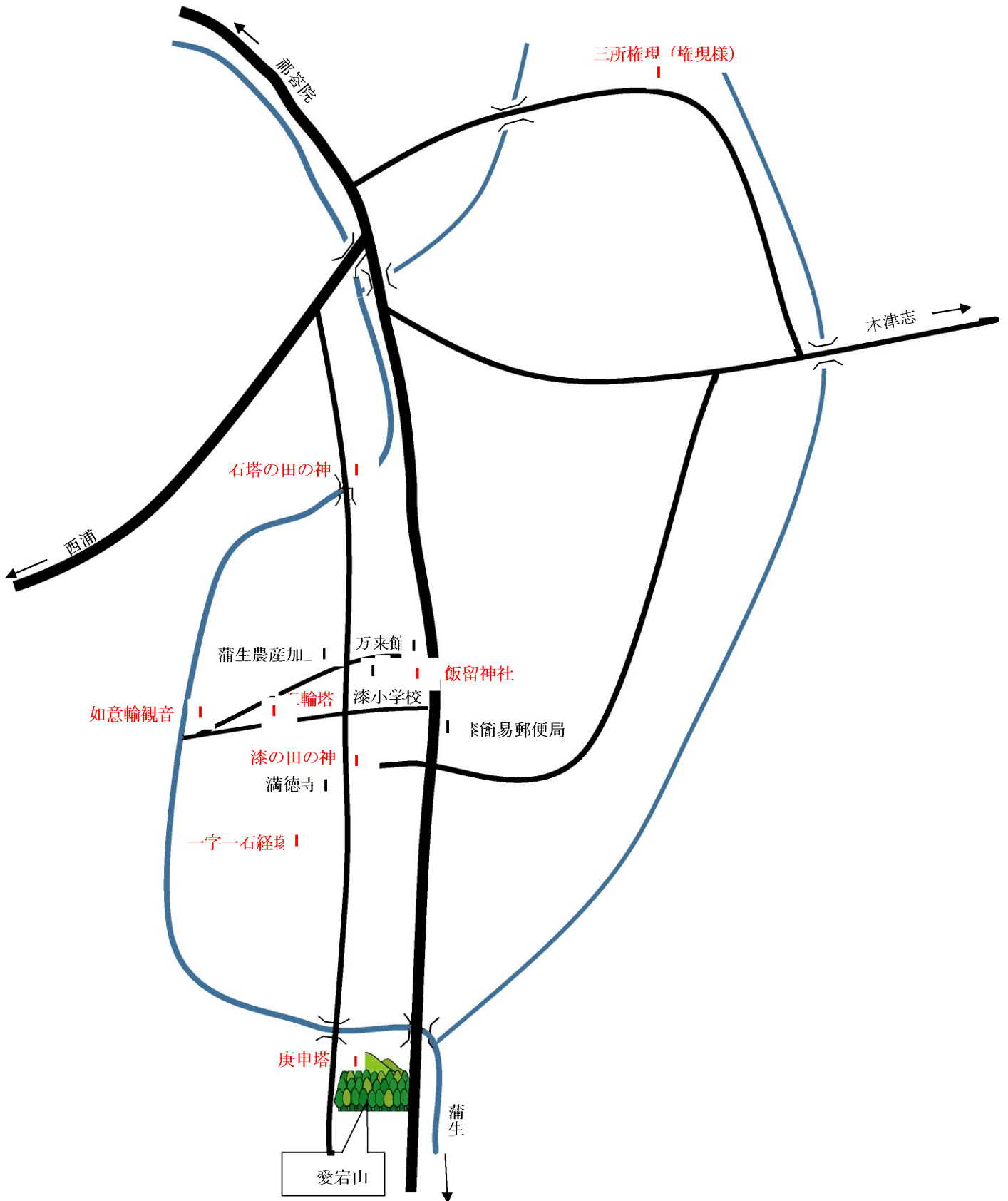
■計画を推進していくためには、地域づくりのための仕組み作りが重要です。そのためにコミュニティ協議会を中心に地域住民、自治会、行政及びNPO法人等に参加、参画していただき、計画の実現に向けて努力していきます。

■計画の推進にあたっては、何に取り組み、予算はどう配分するかなど、民主的に透明性をもって提案し、総会で決定していきます。

■計画の推進にあたっては、人材の適材適所、地域内の人材の掘り起こしに積極的に努めます。

■計画は進捗状況を確認し、必要に応じて見直しを行っていきます。なお、見直しが必要になった場合には、コミュニティ協議会及び各自治会の代表者と協議する場を設け、行政を交えながら計画を推進していきます。

7 漆の（環境遺産(文化財) マップ





鹿児島県指定民俗文化財 県内最古の田の神舞型の像「漆の田の神」
傍らの石碑に「享保3年（1718年）」寄進の記銘がある。壮大で豪放な彫りは、田の神舞型像の代表作といわれている。



中村の玉石垣

1990年（平成2年）に放送されたNHK28作目の大河ドラマ「翔ぶが如く」で、俳優の西田敏行さん（西郷隆盛 役）が、ここを歩くのが撮影された。



一字一石経塚

この遺跡は、経塚で、一つの小石に一字ずつ、経文を書いて埋めた「一字一石経塚」である。また、同時に小石の間から西紀 979 年から、1208 年にわたる、32 枚の中国古銭も出土した。



永仁 7 年銘の五輪塔

永仁 7 年（1299 年）建立、塔は凝灰石で、水輪に納骨孔があり、地輪に銘文が見事な書体で彫られている。県内においては、五指の内に入る古さを持ち、典型的な鎌倉期の様式を備えている。五輪塔とは、供養塔・墓塔として使われる仏塔の一種のことである。



愛宕山の大永3年庚申塔

愛宕山の頂上に、大永3年（1523年）銘の庚申塔がたっている。県内で庚申の文字を持つ塔としては、最古であることから昭和50年に県の有形民俗文化財に指定されている。庚申塔とは、中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔のことである。



石塔の田の神（川原田の田の神）

建立時期は、伝聞では1700年ごろと伝わる。田の神とは、農耕民の間で、稲作の豊穡をもたらすと信じられてきた神様のことである。



飯留神社

たちからおのみこと
 この地にはかつて手力男命がご祭神の善神王社があり、別の地にあった豊受姫命がご祭神の飯留神社を明治4年(1871年)に移転して合祀された。参道の真ん中に杉の巨木が立ちほだかっている。



三所権現（権現様）

ご祭神は和歌山県の熊野三所権現と同じといわれる。

けつみこのかみ くまのはやたまのかみ ふすみのかみ
 本宮の家都御子神、新宮の熊野速玉神、那智の夫須美神の三所である。創建は不詳。棟札は元禄5年(1692年)とある。ご神体の室町期の銅鏡2枚が現存している。初め権現の奥山にあったが、明治44年に現在地の権現段に移設された。



如意輪観音

中村集落にある石仏は、人々を苦しみから救い、財宝福德など、すべての願いを聞き入れる仏として信仰された。この前の道は、蒲生～大村街道でもあったので、道行く旅人も旅の安全を祈ったとされる。

8 資料

■まちづくりプランの計画策定の経過

開催日	内 容	参加人員
平成 28 年 7 月 3 日	まちづくりプラン計画推進にあたっての参加者の選 定	19 人
7 月 31 日	第 1 回 住民ワークショップ ・校区の現状と課題の整理 (1)	20 人
8 月 31 日	第 2 回 住民ワークショップ ・校区の現状と課題の整理 (2)	17 人
11 月 13 日	第 3 回 住民ワークショップ ・校区が目指す将来像、分野別の基本方針の検討	16 人
12 月 11 日	第 4 回 住民ワークショップ ・主な取り組みと実施時期・役割分担の検討	17 人
平成 29 年 1 月 29 日	第 5 回 住民ワークショップ ・今後取り組むプロジェクトの行動計画の検討	17 人
2 月 19 日	第 6 回 住民ワークショップ ・まちづくりプランの全体の検討	19 人

漆校区まちづくりプラン／平成 29 年 3 月策定

発行／漆校区コミュニティ協議会

〒899-5301 始良市蒲生町漆 301 番地 1

TEL・FAX 0995-52-8778

E-mail:urusi.aikomi@po5.synapse.ne.jp